



# Be creative !



## 1 学期始業式の式辞に付け加えて

4月7日の始業式より早くも1か月がたちました。始業式の式辞で、榎太一さんのことを例に挙げ、「自分の根っこにある好きなものをうんと大事にするといい。そのことは自分の中に他者への尊厳を育てることにつながる」というお話をしました。少し、あいだを端折ってお話をしたことがこの1か月心に引っかかっておりました。今月号の「校長室だより」でその補足を試みようと思います。

皆さんは、大人から「夢中になれるものがあるといいよね。」と言われたことはありませんか。私も子どものころ、よく言われた記憶があります。「なぜだろう」と思ったことはありませんか。確かに「夢中になれるものがあること」は楽しいし、嫌なことがあっても集中できるものがあればそれを忘れられたり、次に向かっていくエネルギーを私たちに与えたりしてくれる…でも、どうやらそれだけではなさそうだと私は思うようになりました。私にそれを教えてくれたのは「夢中になれるものを持っている人」との出会いです。その中には、式辞でお話をしたように多くの生徒との出会いもありますが、ここでは、心に残っている新聞記事を紹介します。これは2023年度の校長室だよりでも紹介をしました。

2024年1月31日の朝日新聞「ひと」の欄で見つけたかわいい記事です。稚ダコ64日間の飼育日記をまとめた小学2年生の野中風玖（ふう）君（8歳）。あまりにかわいいので全文を掲載します。

小さいころからよく浜名湖の生き物の展示施設に連れて行ってもらった。お気に入りのはタコ。「タコになりたい。」と茶色の服を好んで身に着けた。

昨春、タコの赤ちゃん、稚ダコの捕獲スポットを職員に教えてもらい、父と一緒に10匹捕まえた。3匹を自宅の水槽で飼育することにして、「マメ」「テナガ」「スカシ」と名づけた。

生シラスを与えたが、食べない。4日目、浜名湖で捕まえたスジエビを与えると食べてもらった。観察記録は「食べた！『うれしかった』(生きていける)」夜にエサを食べることに気づき、父に夜中に起こしてもらった。23日目、マメが死んだ。エサとして与えたカニに襲われたようだ。翌日にはテナガも。しばらく泣いた。死んだ稚ダコの黒目はまん丸だった。普段は細長いのに。

「ひとりでさびしくないかな。」スカシの観察に力が入った。黒目は明るい時に細く、暗い時や雨の日は太くなる。腕の長さの変化など、気になることも増えていった。水の濁りにも気を配り、スカシは2か月以上生きた。3匹は庭に埋め、手を合わせた。

64日間の記録をまとめ、「海とさかな」自由研究・作品コンクールで日本水産学会会長賞を受賞した。「もう一度挑戦し、一日でも長生きさせたい。」

食べ物としては、興味はない。家族でタコ焼きを食べても、一人だけ「タコ抜き」にしている。

この記事の実際の文章は幼い子にも読みやすく、ひらがなを多くし、いつもはついていないルビが漢字についていました。なんと粋な計らい。「タコに腕があるのか？タコの足は8本と教えられてきたの



に。」調べてみると8本のうち腕は6本。3つの対になっていることを風玖君は知ります。

2023年度の校長室だよりでは、この風玖君の話を次のように締めくくりました。

「風玖君の幸せはどこにあるのか。まず、夢中になれる大好きなものがあることだ。風玖君がずっとタコ好きでいるかどうかはわからないが、自分の関心の赴くものにとことん付き合う資質がきっと彼には備わっている。二つ目は支える大人が彼の周りにいることだ。生き物展示室の飼育員さん。文章の中には1回しか登場しない飼育員さんだが、彼の日常生活の随所にこの人はきっと存在しているのだろう。次にお父さん。稚ダコにエサを与えるためにお父さんは彼を夜中に起こしている。自分でやった方が楽なのに、お父さんは彼を起こすのである。いつか彼はこのあまりに暖かく、自分を包み込んでくれた大人の存在に気づくであろう。自分自身の深い芯にこのことが根づけば、風玖君もまた飼育員さんやお父さんと同じ大人になれるはずだ。“推し”が彼に与えてくれるなによりの幸せである。」

「好きなものを大事にすること」は自分自身の中に「哲学を育てる」ことにつながる、そしてその哲学は「他者への尊厳をその人の中に育てる」ことにつながると私は考えます。この時小学校2年生だった風玖君も小学校5年生になっている。成長した彼の中で、このタコたちのことはどのように残っているのか、現在も発展形で彼の「好き」は広がっていつているのだろうか、彼の未来をのぞいてみたい気持ちになります。

## 2026 サッカー部男子 僕らのチームフィロソフィー



僕たちサッカー部は、今年の年始にチーム全体でミーティングをし、自分たちのあるべき姿である「チームフィロソフィー」を考えました。長時間、話し合い、学校生活・私生活・部活動すべての面で当てはまる6つのワードを設定しました。それが、「**凡事徹底・自覚と責任・感謝・原点・自発的・尊敬**」です。日々の自分の行動が、



この「チームフィロソフィー」のどのワードに当てはまっているかを考えて行動をしてき

ました。この取り組みの中で、顧問の鶴飼先生からバッチを作り、制服に装着することを提案していただき、この5月からブレザーにバッチをつけることになりました。このことにより、サッカー部内だけでなく、学校全体にもサッカー部の「チームフィロソフィー」が目に見える形となり、自分自身の行動指針として自分たちを律することができます。また、常に見えることにより、自分たちの自覚もより高まります。

何か迷った時などに自分たちが立ち返るものとなるのが「チームフィロソフィー」です。学校生活・私生活・部活動のすべての場面においてこの「チームフィロソフィー」を大切にしていけることが、自分たちの目指している「カッコいい男になる」ことにつながっていくと思っています。頑張ります！（男子サッカー部）



### 顧問 速水先生の言葉

私たちサッカー部は、部活動において大切にしている価値観や行動指針を、日常の学校生活においても継続的に意識し、実践することを目的として、オリジナルバッチを制服に装着することにしました。競技力の向上だけではなく、人間的成長にもつながる理念を簡潔な言葉で表現し、部員が常にそのことを自覚できるようにするという意図をもって取り組みます。授業・学校行事をはじめとする学校生活全般において、部員たちの主体的かつ模範的な行動を促し、学校全体の規律や雰囲気の上昇に寄与できると考えます。この取り組みを通して、部員たちの自己管理能力を高め、集団としての規範能力の醸成に努めてまいります。